

『幼児の教育』

こころが新しくなります。

「日本幼稚園協会」一〇〇年

皆さんは、本誌の発行所がずっと「日本幼稚園協会」だったことをご存じでしょうか。実は、一九〇一年の創刊時は「フレールベル会」（一八九六年設立）という保育実践研究団体の機関誌でした。その「フレールベル会」が「日本幼稚園協会」に変わって、今年（二〇一八年）でちょうど一〇〇年なのです。

当時の就園率はわずか一、二パーセント。その頃は、現代でいう幼稚園も保育所（託児所）も多種多様な保育形態の施設がすべて「幼稚園」、保育者は皆「保母」と呼ばれ、資格制度も未整備でした。

一九一八（大正七）年の（最後の）フレールベル会総会で湯原元一会長が、会名を「日本幼稚園協会」に変更する理由について話しています。まだ、幼児教育の重要性はもとより幼稚園というものの社会的認知も低い時代。幼稚園は、制度的には「小学校令」の付帯条項としてわずかに触れられているだけでした。湯原は、もうフレールベルという「外国人」の名を借りている場合ではない、日本における幼稚園の存在意義を日本人として考え、保母の待遇改善などの要求を政治や社会に向けて主張する必要があると述べました。幼児教育の意義を世に問う湯原の気概は、現代を生きる私たちにもひしひしと伝わってきます。（本誌の前身『婦人と子ども』第十八巻第十一号）

本誌がこれから目指すこと

一世紀たち、日本の幼児教育をめぐる状況や制度は大きく変わり、「幼稚園」は、幼児が過ごす多様な場の一つとなりました。地域

子育て支援や認可外保育なども含め、多様な子育てニーズが社会的に了解され、子どもはもちろん、保護者や地域とも共同して生きる人であることが、保育者の専門性として強く求められるようになってきています。

三つの「要領・指針」が新たに実施される今年、『幼児の教育』も一つ新しいステップを踏み出そうと考え、次の二つのリニューアルポイントを掲げます。

①保育者、学生、研究者、子育てにかかわるすべての人の「それぞれの保育研究」を支えるテキストに。日常の中でふと読みたくなる記事から、手応えのある長めの論考（特集や探究）まで、多様な場で読め、共に学びあうきっかけづくりになる雑誌を目指します。

②保育や子どもに関する論考の投稿を受けつけ、査読を行います。保育実践研究、若手研究者の萌芽的研究も歓迎します。詳しくは、編集委員会へお問い合わせください。

◆研究論文を募集します◆

*ピアレビュー（査読）の上、掲載します。

本誌の巻末、横書き部分の「探究」ページに掲載する論文を募集します。

- 【テーマ】 子ども、保育に関するもの
【文字数等】 400字詰め原稿用紙36枚程度
(写真・図表の分、本文が減ります)
本文はワード原稿で作成してください
【締め切り】 随時募集します
【送付先】 本誌編集委員会

Mail:youji-no-kyouiku@cc.ocha.ac.jp

◎ご投稿の際は、氏名、住所、電話、メールアドレス、所属・職名を明記してください。

*本誌の発行所は「お茶の水女子大学『幼児の教育』編集委員会」となります。連絡先等も変わりますので、本誌巻末の奥付をご覧ください。